潮騒
第42号
平成28年
8月1日

公益財団法人 日本殉職船員顕彰会
〒102-0083 東京都千代田区麹町四-五
海事センタービル
電話 〇三-三二三四-〇六六二
FAX 〇三-三二三四-〇六八二

海洋永遠の平和を
第46回戦没・殉職船員追悼式

第46回戦没・殉職船員追悼式は、5月12日、初夏を思わせる強い日差しの中、横須賀市の神奈川県立観音崎公園「戦没船員の碑」の前で、全国各地からご遺族をはじめ立法および行政関係者、海事関係団体ならびに業界代表者、約500人が参列し盛大に執り行われた。

献花を捧げるご遺族のみなさん

式典に先立ち、海上自衛隊横須賀音楽隊による「真白き富士の嶺」「椰子の実」「千の風になって」の曲が、おごそかに演奏されると、参列者は静かに聴き入った。

式典は午前11時にはじまり、国家斉唱、黙とうに続き、会長式辞、内閣総理大臣追悼の辞が捧げられた。

海上自衛隊横須賀音楽隊による、海に殉じた人々へのレクイエム（鎮魂曲）『君は帰る母なる海へ』が演奏されるなか、会長、遺族代表、海事振興連盟、各界代表に続いて参列者全員が白菊を供え、戦没・殉職船員の御霊の鎮魂と海洋永遠の平和を願って、祈りを捧げた。

東京湾口を望む「戦没船員の碑」の式場で、観世一門による能楽「海霊」が奉納された。

平成27年お誕生日に際し
天皇陛下のお言葉

天皇陛下は、平成27年12月23日、82歳の誕生日に先立ち、宮内庁の記者会見で、戦後70年の節目に当たり『この1年を振り返ると、様々な面で先の戦争のことを考えて過ごした1年だったように思います。年々、戦争を知らない世代が増加していきますが、先の戦争のことを十分に知り、考えを深めていくことが日本の将来にとって極めて大切なことと思います。』として、先の大戦で軍に徴用された民間船員が多数犠牲になったことについて、声を震わせながら話されました。

第45回追悼式で供花される
天皇皇后両陛下

今年は先の大戦が終結して70年という節目の年に当たります。この戦争においては、軍人以外の人々も含め、誠に多くの人命が失われました。平和であったならば、社会の様々な分野で有意義な人生を送ったであろう人々が命を失ったわけであり、このことを考えると、非常に心が痛みます。

軍人以外に戦争によって生命にかかわる大きな犠牲を払った人々として、民間の船の船員があります。将来は外国航路の船員になることも夢見た人々が、民間の船を徴用して軍人や軍用物資などをのせる輸送船の船員として働き、敵の攻撃によって命を失いました。日本は海に囲まれ、海運国として発展していました。

私も小さい時、船の絵葉書を見て楽しんだことがありますが、それらの船は、病院船として残った氷川丸以外は、ほとんど海に沈んだということを後に知りました。

制空権がなく、輸送船を守るべき軍艦などもない状況下でも、輸送業務に携わらなければならなかった船員の気持ちを本当に痛ましく思います。

今年の6月には第45回戦没・殉職船員追悼式が神奈川県の戦没船員の碑の前で行われ、亡くなった船員のことを思い、供花しました。（抜粋）

波静かなれ　とこしえに
第46回戦没・殉職船員追悼式
観音崎公園

真夏を思わせる強い日差しが照りつける、横須賀市観音崎の戦没船員の碑で、植村保雄理事長の開式の辞に続いて国歌斉唱の後、「国の鎮め」の演奏にあわせ、戦没・殉職船員6万3611名の鎮魂と永久の平和を祈念して黙とうを捧げた。

顕彰会を代表して、芦田昭充会長が式辞を、国を代表して内閣総理大臣追悼の辞を国土交通省の若林陽介海事局次長が代読した。

◎式辞
芦田昭充会長

本日ここに、第46回戦没・殉職船員追悼式を執り行うにあたり、全国各地から斯くも多くの、ご遺族をはじめ関係者の方々のご参列を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。

本年もまた、戦没船員の碑にあらたに戦没船員34人、殉職船員1人の名簿を奉安いたしました。これにより先の大戦で犠牲となった戦没船員6万643人と海難などにより殉職された船員2968人の尊い御霊が、安らかに眠っておられます。

昨年の第45回戦没・殉職船員追悼式は、天皇皇后両陛下の行幸啓を賜り挙行いたしました。

天皇陛下は82歳のお誕生日に際し、「制空権がなく、輸送船を守るべき軍艦などもない状況下でも、輸送業務に携わらなければならなかった船員の気持ちを本当に痛ましく、追悼式では亡くなった船員のことを思い、供花しました」とお言葉を述べられました。ご遺族の長年の労苦への、陛下の御心と思われます。

今日、幾多の困難を克服し、海洋国家日本として、平和と繁栄を享受できているのは、志半ばで海に散った戦没船員と、わが国の復興を支えた、海運・水産業で、不幸にしてその職に殉じられた船員の尊い犠牲のうえにあることを決して忘れてはなりません。

ここにあらためて、深く哀悼の誠を捧げるとともに、かけがえのない肉親を失い、言い知れぬ苦難の日々を送ってこられた、ご遺族の方々の労苦と心情に思いをいたし、心から敬意を表するものであります。

私たちは、戦争の悲惨さを後世に伝えるとともに、戦没・殉職船員の御霊の慰霊・顕彰と海洋国家日本の永久の平和と安全を祈念していくことを、ここにお誓いいたします。

安らかにねむれ　わが友よ
波静かなれ　とこしえに

この碑に刻まれた言葉を、参列者の皆様とともに6万3千余の御霊に捧げ、本会を代表しての式辞といたします。

◎内閣総理大臣追悼の辞
若林陽介国土交通省海事局次長代読

第46回追悼式が挙行されるに当たり、戦没・殉職船員の方々の御霊に対し、謹んで追悼の誠を捧げます。

先の大戦においては、祖国を思い、家族を案じた、6万人余りの船員の方々の尊い命が失われました。戦後も、海難事故や労働災害により2千9百人を超える船員の方々がその職に殉じられています。また、東日本大震災においては、海と共に生きる多くの方々が犠牲になりました。

世界に冠たる海洋国家である我が国において、今日、私たちが享受する平和と繁栄は、海に関わる多くの方々の尊い犠牲の上にあることを、私たちは決して忘れません。祖国の未来を想い、蒼海に眠る船員の方々の御霊の御前で、恒久の平和と海上交通の安全に全力を尽くして参りますことを、ここに改めてお誓いいたします。御遺族の皆様の深い悲しみに思いを致すとともに、戦没・殉職船員の方々の安らかな眠りを心からお祈りします。

献花を捧げる

海上自衛隊横須賀音楽隊による鎮魂曲「君は帰る母なる海へ」がおごそかに演奏されるなか、献花が行われた。顕彰会を代表して芦田昭充会長（写真①）に続いて、ご遺族を代表して戦没船員遺族の、栗田達雄さんと北村禮子さん、殉職船員遺族の藤原孝士さんと小野寺麗子さんが白菊を捧げた。（写真②）

献花を捧げる芦田会長

左から、ご遺族の小野寺さん、藤原さん
北村さん、栗田さん

◎来賓・各界代表献花者（敬称略）

栗田　達雄（戦没船員遺族代表）
北村　禮子（戦没船員遺族代表）
藤原　孝士（殉職船員遺族代表）
小野寺麗子（殉職船員遺族代表）
髙木　義明（海事振興連盟副会長衆議院議員）
衛藤征士郎（海事振興連盟会長衆議院議員名代神田信浩）
漆原　良夫（海事振興連盟副会長衆議院議員名代澁谷朗）
若林　陽介（国土交通省海事局次長）
小田　和之（日本船主協会副会長）
藤岡　宗一（日本内航海運組合総連合会審議役）
長岡　英典（大日本水産会常務理事）
森田　保己（全日本海員組合組合長）
酒井智代子（全国海友婦人会会長）
吉田　雄人（横須賀市長）
青木　秀介（横須賀市議会副議長）
市田　明子（神奈川県横須賀土木事務所副所長）
千葉　証（神奈川県浦賀警察署長）
堂下　哲郎（海上自衛隊横須賀地方総監）
宮野　直昭（海上保安庁第三管区海上保安本部長）
松浦　数雄（国土交通省海難審判所長）
濱本　宏（運輸安全委員会事務局横浜事務所長）
野崎　哲一（海技教育機構理事長）
竹内　俊郎（東京海洋大学長）

◎式電をいただいた方々（敬称略）

甘利　明（衆議院議員）
大畠　章宏（衆議院議員）
石井　淳子（厚生労働省　社会・援護局長）
武居　智久（防衛省　海上幕僚長）
武田　廣（神戸大学長）
新田　保次（鳥羽商船高等専門学校長）
木村　隆一（弓削商船高等専門学校長）
山内　守武（福岡海寿会会長）

左から若林さん、澁谷さん
神田さん、髙木さん

左から長岡さん、藤岡さん
小田さん

左から森田さん、酒井さん

左から千葉さん、市田さん
青木さん、吉田さん

左から宮野さん、堂下さん

左から竹内さん、野崎さん
濱本さん、松浦さん

浦賀水道を行き交う船を望み、献花する
参列者の皆さん

戦没・殉職船員の御霊に献杯

真夏日を思わせる強い日差しの中での追悼式を終えて、参列者はマイクロバスで、また足腰の健康な方々は汗だくになりながら徒歩で懇親会場の観音崎京急ホテルに移動し、目の前に広がる日本の海の大動脈、浦賀水道航路を行き交う船を眺めながら恒例の懇親会を開催した。

懇親会では、日本殉職船員顕彰会の芦田会長のあいさつに続いて、内田傑国土交通省大臣官房審議官により「御霊の安らかならんこととご遺族の末永いご健勝を祈念して献杯」のご発声により、遺族の方々をはじめ関係者らがテーブルを囲んで、和やかに歓談のひと時を過ごした。

懇親会であいさつする芦田会長

内田傑国土交通省大臣官房審議官の献杯のご発声により和やかな懇親会がはじまった

終戦記念日献花式

終戦記念日（8月15日）に観音崎公園「戦没船員の碑」で献花式を行います。ご案内するのは、当会役員など約60人ですが、どなたでも参列することができます。参列される場合は、バス等の関係から顕彰会に必ずご連絡ください。

▽午前11時20分観音崎京急ホテル集合▽同30分マイクロバスで戦没船員の碑へ▽同50分慰霊碑の献花台前に整列▽「全国戦没者追悼式」のラジオ実況放送に合わせて総理大臣式辞▽12時黙とう、戦没船員の御霊を追悼し、海洋永遠の平和を誓います。▽同02分天皇陛下のお言葉を聞き、閉式。マイクロバスで観音崎京急ホテルへ戻って昼食・解散となります。

服装は、白ワイシャツに黒ネクタイの軽装でお願いします。

例年、役職員のほか、海事関係者や当会役員経験者など40人余が参列し哀悼の誠を捧げます。

お知らせ

公益財団法人日本殉職船員顕彰会
電話　03-3234-0662

参列したご遺族のお話し

■北村禮子さん　（東京都）

15年前から追悼式典に出席しています。父・船橋繁男は大阪商船の「九州丸」で昭和17年10月に空襲を受け亡くなりました。当時は神戸で、私は8才でしたが、出港の前の晩に父が会いに来てくれて、父が私の体をギュッと抱きしめてくれたことを覚えています。

■石丸暢子さん　（長崎県）

今回初めて参加しました。父・川口二生は、浅野物産の紀洋丸に乗船し、昭和19年1月4日にボルネオで亡くなりました。当時は兵庫県相生市に住んでいました。父と同じ船の方に会えるかも知れないと思い、長崎から来ました。（この後、石丸さんは崙山丸の遺族、飯田尚世さんとお話しされた。）

■岡靖晃さん・奥様のトモ子さん　（横須賀市）

今回初めての参加です。現在は横須賀に住んでいまして、観音崎公園にはよくきていたのですが、追悼式典が行われていたことは、昨年のテレビ放送で知りました。それで殉職船員顕彰会に問い合わせ、父・岡政雄（澤山汽船の第5東洋丸の機関長）が、第5東洋丸に乗船して昭和19年2月に和歌山県梶取崎南沖で潜水艦の魚雷攻撃により沈没したという詳細を知ることができました。

■紅林道也さん　（藤枝市）

今回初めての参加。叔父の紅林甲子二が、日本郵船の「道後丸」に乗船し21歳でなくなりました。昨年の追悼式典のニュースを見て、殉職船員顕彰会に問い合わせたところ、叔父がこの観音崎に奉安されていると聞いて、手を合わせにきました。

■首藤クニさん　（川崎市）

追悼式典には初めて参加します。昨年、横浜で開催された殉職船員顕彰会主催の大久保画伯展を見たときに、この追悼式典のことと父・伊藤祐賢が亡くなった時の詳細（父は日本サルベージの「三保丸」の通信士で、昭和19年9月にフィリピンのセブ島で空襲を受けて亡くなりました）をおしえていただきました。

■飯田尚世さん　（東京都）

今回初めての参加です。父・眞柳照乎は崙山丸の機関長で、昭和19年2月に徳之島で被雷し亡くなりました。昨年、父が青春時代を過ごした神戸の商船大学（現在の神戸大学）を訪ね、戦没船資料の展示を見て、この追悼式典を知ることができました。今は海上慰霊をすることが一番の望みです。

■松本アサヱさん・お孫さんの和也さんが同行　（加古川市）

昨年、神戸の知人から教えていただき、この追悼式典を知りました。初めての参加です。夫・松本敏行は三井船舶の「白根山丸」に乗船して、昭和19年10月、ブスアンガ島沖で米潜水艦の魚雷攻撃で亡くなりました。

■津田芳子さん　（兵庫県揖保郡）

今回初めての参加です。昨年、テレビで追悼式典の報道を見て、殉職船員顕彰会に問い合わせて、この追悼式典を知ることができました。父・楢崎保郎は大阪商船の「熱河丸」に乗船し、昭和18年11月に米潜水艦の魚雷攻撃を受け亡くなりました。

戦没・殉職船員追悼式は関係団体と個人協力者の支援で運営されています

追悼式典の運営には大勢のボランティアによるご支援が欠かせません。第46回追悼式には、海事関係15団体35人と個人協力者7人に顕彰会スタッフ4人を加えた46人が携わりました。

追悼式前日は、風が強く小雨がぱらつく空模様で、天候を心配したが、当日は夏日を思わせる強い日差しと暑さにもかかわらず、これまでの経験が生かされ、大きな混乱もなく滞りなく挙行しました。皆様のご支援、ご協力の賜物と感謝いたします。

今回も実行委員の皆様から、次回につなげるご意見・要望がよせられました。その一部を紹介します。

実行委員の皆さん

■**荒谷秀治さん**（個人協力者）

今年は予定終了時間が約1時間位、延びた追悼式になりました。

参拝者が昨年12月の天皇誕生日記者会見での天皇陛下の亡き船員についての御言葉を胸中に込めて献花されたためと思っています。

今回も会場車両係をしましたが、会場付近を散歩されている方が口々に「ご苦労様です」の声を掛けて頂き追悼式が認知されたと思います（以前は何があるのとの質問が多かった）。また、慰霊式典終了後の懇親会場での対応係をしました。以前は「早くこの追悼式を知っていれば」の声が多かったが、今は顕彰会への感謝の言葉と、これからも毎回参加したいとの言葉を頂きました。

この追悼式を大事に思っておられる遺族ならびに関係者各位、準備に当たられた顕彰会の方々に多少とも御手伝いが出来たことにお礼を申し上げます。

■**佐藤　周さん**（全日本海員組合）

今回初めて実行委員を務めさせていただき、様々なことを考えさせられました。亡くなられた方のご遺族やご親族の方々がご高齢になられており、大変な思いをしてでも参加されている姿を見て、家族を失った悲しみを今でも強く持っておられるのではないかと察してしまいました。

それほどまでに肉親を失うことは辛いものであるということを実感し、その悲しみを生み出した船員の徴用は二度と起きてはほしくないと同時に感じました。

戦争とは無縁の生活を送っている私にとって、その当時を思い、戦争で亡くなられた方を追悼するこのような式典に関われたことをありがたく思っております。時が経つにつれ戦争を経験された方が少なくなっていく中で、戦争について考えさせられるこの式典を今後も行われることを切に願っております。

■**小林悠登里さん**（東京海洋大学）

私は今回初めて追悼式に参加させて頂き、分からないことも度々ありましたが、他の委員の方に助けて頂いて無事式典を終えることができました。

実行委員として参加するまでは追悼式がどのようなものかも理解していなかったけれども、実行委員を経てとても貴重な経験をさせて頂いたと思っています。前日は天候も悪く、当日は電車が遅延したりと本当に参加者が集まるのだろうか、と考えていましたが、高齢の方や遠方の方もいらっしゃるにもかかわらず会場に多くの人が来場され、この式典の持つ意味と言うのを考えさせられました。私自身は商船大学を前身とする東京海洋大学の学生でありながら、戦時下においてこれ程たくさんの船員の命が犠牲になったという事実すら知らずにいたことを恥ずかしくも感じました。今回は遺族の受付担当としてお手伝いさせていただきましたが、やはりご高齢の方が多いという印象を受け、自分のような戦争を知らない世代の人間が事実を知ろうとし、関心を抱くことに意義があるように思いました。

戦没・殉職船員追悼式の一端に携わった人間として、戦争の記憶、そして戦後から現在に至るまでの多くの船員の活躍を風化させることなく、より多くの人々に伝承していくことが自分が出来る、また果たしていくべき役割だと思っています。

数々の船舶が行きかう美しい海に臨む追悼の碑を目の前にした光景はとても穏やかで、深く印象に残っています。

今回このような場に参加させていただけたことに感謝いたします。今後も、機会がありましたら携わらせていただきたいと思います。

▼横須賀海洋少年団（9人）▼東京海洋大学海事普及会（7人）▼全日本海員組合本部（4人）▼全日本海員組合関東地方支部「海友会」（2人）・「木洋会」（2人）▼日本内航海運組合総連合会（2人）▼日本船主協会▼大日本水産会▼全日本船舶職員協会▼日本船舶機関士協会▼日本船長協会▼日本海事広報協会▼日本水先人会連合会▼海技振興センター▼海洋会、以上各1人▼個人協力者（7人）に顕彰会（4人）が加わり、今回は46人で実行委員会を構成しました。（順不同）

早朝から、受付の準備をする
実行委員の皆さん

■**藤田信輔さん**（東京海洋大学）

今回は昨年に引き続き2回目ということもあり、昨年より確実に、素早く入り口の車両管理を行うことが出来ました。前回の経験から全体の流れを把握することができたので、微力ながら事務局の皆様のお手伝いに回ることも出来ました。

前回実行委員を務めさせて頂いたときは、戦争で亡くなった私たちのOBの方々を含む、船員の方々を弔う気持ちで取り組みました。

今年の2月に顕彰会の船員の戦争体験談聞き取り事業に携わらせて頂き、戦争中に船員をなされていた方のお話を聞く中で、追悼式は戦争を乗り越えた人と、亡くなられた方の思いを伝える場所でもあると思うようにもなりました。

今回の追悼式は滞りなく行われ、思いを伝えるお手伝いが出来たかと思います。

学生の身分でこのような大切な式典の実行委員を毎年担わせて頂いていることに感謝しております。今まで、一度も式典の様子を見たことがありませんので、次回かその次の機会にでも見ることが出来ればと思っております。

■**佐田昌弘さん**（海洋会）

この度は、初めて参加させていただいた。事前の役割分担とその作業の概要説明があり、資料が準備されていた為本番でも出来るだろうとの感想を持った。しかし、本番は、戸惑うものだと改めて感じた。

そこは、経験豊富な顕彰会の事務局が担当割を「経験者＋新人」で行っていたので安心感はあった。実際に受付を開始してみてその通りだなと実感した次第。

私は、一般受付を拝命したが、ペアーを組んだ東京海洋大の学生さんが海事普及会に所属していることから今後の海洋会の交流に大いに役立つ機会を得られたことは幸甚でした。

一方で、お客様との交流と云う面では、如何ともし難いなと感じた。

但し、年配の女性のご遺族の方が、学生に「帽子の校章は神戸、東京と同じなの？」とお声をかけておられたので、「神戸は、このネクタイピン（私は神戸の出身なので）ですよ」とお見せしたところ喜んでおられたので、ほんの少しで暖かな心持になった。

今回はその思いを胸に実行委員の仕事を終えたいと思う。

来年もその方にお会いできればと思いながら。

参列者がお帰りの時、白菊を手渡す
東京海洋大学海事普及会の皆さん

「戦没船員の碑」の広場

■**大類健三郎さん**（日本船長協会）

石碑に刻まれた「安らかに　ねむれ　わが友よ　波静かなれ　とこしえに」の碑文を見ながら、海に命を散らした御霊に思いを馳せ、厳かな心境になりました。先人達の残して下さった平和な海をいつまでも守らなければと思いました。

また、他の実行委員の方々とお近づきになれて、炎天下の中、一緒に汗を流したり、会食したり、展望露天風呂で語ったり、楽しい思い出を作れました。

実行委員に選んで頂いたお陰で、貴重な経験をさせて頂き誠に有難うございました。次回もまた宜しくお願い致します。

戦没船員34名・殉職船員1名

「戦没船員の碑」に新たに奉安

本年4月20日、追悼式を前に、次の戦没船員ならびに殉職された方々のご芳名を浄書した名簿を「戦没船員の碑」に奉安いたしました。

5月12日に執り行われた第46回戦没・殉職船員追悼式で全国から参列した方々から、鎮魂の祈りが捧げられました。

当会では、商船や漁船乗船中に海難や事故などで殉職された船員の調査を行い、ご遺族の了承が得られた方のご芳名と没年月日を浄書した名簿を「戦没船員の碑」に奉安しています。

戦没船員について、調査ならびにご遺族からの問い合わせにより新たに判明した方は、戦没船員名簿に登録し「戦没船員の碑」に奉安しています。

戦没船員（34名）順不同

藤川　尚友　様（昭和18年10月7日没）
山路　巳吉　様（昭和18年10月7日没）
田中　賢一　様（昭和18年10月7日没）
宇野津久義　様（昭和18年10月7日没）
井本　勝男　様（昭和18年10月7日没）
小野　友二　様（昭和18年10月7日没）
藍木　　彰　様（昭和18年10月7日没）
立田　礼一　様（昭和18年10月7日没）
木下　文助　様（昭和18年10月7日没）
灘　　才男　様（昭和18年10月7日没）
近藤　義定　様（昭和18年10月7日没）
江村　初義　様（昭和18年10月7日没）
藤本　　清　様（昭和18年10月7日没）
野村　光徳　様（昭和18年10月7日没）
佐藤　昭二　様（昭和18年10月7日没）
本間　寅吉　様（昭和18年10月7日没）
金石　　透　様（昭和18年10月7日没）
刀根　春雄　様（昭和18年10月7日没）
村岡　金吾　様（昭和18年10月7日没）
篠田　菊一　様（昭和18年10月7日没）
伊藤　　董　様（昭和18年10月7日没）
菅　　光夫　様（昭和18年10月7日没）
竹本勝次郎　様（昭和18年10月7日没）
玉田　芳夫　様（昭和18年10月7日没）
白井　武次　様（昭和18年10月7日没）
馬場　　清　様（昭和18年10月7日没）
大屋隆次郎　様（昭和18年10月7日没）
稲元　利春　様（昭和18年10月7日没）
吉原　正人　様（昭和18年10月7日没）
梶原　彦助　様（昭和18年10月7日没）
伊徳　勝経　様（昭和18年10月7日没）
橋谷　　弘　様（昭和18年10月7日没）
湯川　重助　様（昭和18年10月7日没）
田中　貫一　様（昭和20年7月20日没）

殉職船員（1名）

織田　邦彦　様（平成27年7月31日没）

殉職船員遺族援護事業

海難や労災事故はあってはならないことですが、殉職船員遺児援護制度を知らないために遺族が苦境におかれていては大変です。

個人情報保護の関係から事故情報がとりにくい社会情勢にあります。

援護金の給付申請や事故情報の提供に、船社や業界団体のご協力をお願いします。

返還義務のない制度

当会の殉職船員遺族援護事業は、昭和58年にスタートしました。

商船などに乗船中、海難や職務上の事故などで殉職された船員の遺児に援護金を給付する制度で、返還の義務はありません。

支給額は1人月額8千円のほか、入学記念品代として小学校入学時に3万円、中学校入学時と高校入学時には、それぞれ1万円を給付します。

支給期間は、遺児が義務教育および高等学校を終了するまで。

詳しくは、当会事務局へお問い合わせください。

なお、漁船乗組員の遺児の方は、漁船海難遺児育英会（☎03－3518－6121）が援護事業を行っていますので、お問い合わせください。

ご遺族からのお便り

本誌夏号では、殉職船員ご遺族の方々からのお便りを紹介しています。

■織田幸恵さん（広島県）

いつもお世話になっております。

朝陽は高校生になり毎日野球部で頑張っています。7月9日から始まる夏の大会での勝利をめざし、一丸となって練習する選手たちからたくさんの勇気をもらっています。

有瑠は水泳が始まり、楽しみに学校へ通っています。もうすぐ主人の一周忌です。子供たちが元気に挑戦している姿を主人に見せてあげたいです。

■佐藤亜希さん（青森県）

白いご飯が大好きで毎日おかわりして食べています。

月命日には毎月。子供たちも一緒にお墓参りに行っています。

■大竹初美さん（三重県）

いつもありがとうございます。

暑い夏がやってきました。

一学期も終わりつつあり、次女は少しずつ高校生活に慣れてきています。通学と宿題で、毎日疲れ忙しそうにしています。

長女は、大学3年生になりゼミが楽しそうです。

皆様のご厚情に感謝申し上げます

平成27年11月21日以降、平成28年6月30日までの間に、次の方々に新たに賛助会員、協賛会員として加入いただきました。

また、次の皆様からご寄付をいただきました。厚く御礼申し上げます。

本会の事業運営は、基本財産の運用益のほか、会員からの会費や寄付金、海運・水産・旅客船などの会社および海事関係団体からの会費や補助金などで、戦没・殉職船員の慰霊・顕彰とご遺族への援護事業を支えています。

会員制度には、賛助会員と協賛会員があります。

■賛助会員には、「法人」と「個人」があり、年会費は◎法人賛助会費＝1口10万円、◎個人賛助会費＝1口1万円をお願いしています。

■協賛会員は「個人」にお願いしているもので、年会費は1口3千円です。

新たな賛助会員の皆様　（順不同）

○重田育輝様（羽曳野市）○岡﨑久様（武蔵野市）

新たな協賛会員の皆様　（順不同）

○松野一美様（洲本市）○藤井隆治様（東京都目黒区）○大類健三郎様（横浜市）○鐘ヶ江淳一様（鎌倉市）○堀出一郎様（柏市）○津田芳子様（兵庫県揖保郡）○薮田みどり様（羽曳野市）○蔦谷文乃様（印西市）

追悼式献花料　（順不同）

○伊藤郁子様（東京都大田区）○大圖富美子様（水戸市）○小林義隆様（篠山市）○中村順子様（船橋市）○西川克巳様（神戸市）○川畑實恵様（明石市）○髙野さよ子様（静岡市）○水野孝子様（新潟市）○栗田達雄様（東京都港区）○山岸信一様（前橋市）○嶋田早苗様（八幡市）○中野昭男様（名古屋市）○北村禮子様（東京都江東区）○山本チエ子様（吹田市）○福士武光様（札幌市）○棚池さつき様（多摩市）○後藤美津子様（横浜市）○今田小夜子様（川口市）○西本久美子様（越谷市）○守田忠様（名取市）○飯田尚世様（東京都港区）○津田芳子様（兵庫県揖保郡）○山田淑子様（豊中市）○福田陽子様（雲仙市）○小野寺麗子様（気仙沼市）○小澤恒雄様（松江市）○村上菊野様（北九州市）○福本健治様（横須賀市）○大石美恵香様（横浜市）○全日本海員生活協同組合様（横浜市）○鴨居地区連合町内会様（横須賀市）○鴨居三軒谷町内会様（横須賀市）○横須賀市東部漁業協同組合鴨居支所様（横須賀市）○浪速タンカー㈱様（東京都港区）○鶴丸海運㈱様（北九州市）○宮越和子様（佐倉市）○海員組合職員ＯＢ全国会様（東京都港区）○高等商船学校二期生会様（横浜市）○北沢昌永様（横浜市）○宮越健郎様（佐倉市）○横浜緑ヶ丘高等学校ハンドボール部ＯＢ会様（横浜市）○宮越あきお様（佐倉市）○（一財）全日本海員福祉センター様（東京都港区）○日本内航海運組合総連合会様（東京都千代田区）○米山隆昭様（東京都北区）○荒谷秀治様（横浜市）○（一財）船員保険会会長坂野泰治様（東京都渋谷区）○（一財）船員保険会常務理事中澤政光様（東京都渋谷区）○小林さかえ様（東京都目黒区）○長野ヨネ子様（東京都中野区）○松本三七一様（姫路市）○豊丸漁業㈲様（横須賀市）○住吉漁業㈱様（三浦市）○（一財）日本航路標識協会様（東京都千代田区）○全国海運組合連合会様（東京都千代田区）○（公財）海技資格協力センター様（東京都千代田区）○（一財）日本船員厚生協会様（横浜市）○（一社）日本中小型造船工業会様（東京都千代田区）○船主団体内航労務協会様（東京都千代田区）○（公財）水交会様（東京都渋谷区）○（公財）偕行社様（東京都千代田区）○東郷会様（東京都渋谷区）○（一社）外航船員医療事業団様（東京都千代田区）○海翔会様（東京都港区）○三輪史郎様（富里市）○三宅弘様（逗子市）○横浜海員会館様（横浜市）○福岡海寿会様（福岡市）○曽根幸雄様（横浜市）○才津俊朗様（横浜市）○小松和夫様（横浜市）○南七郎様（新潟県岩船郡）○五十嵐温彦様（大和市）○全国海員学校同窓会様（新座市）○金沢輝雄様（横浜市）○鳥羽商船同窓会様（鳥羽市）○坂元茂昭様（赤穂市）○山下義韶様（神奈川県中郡）○深田順一様（三重県多気郡）○飯田喜久三様（東京都渋谷区）○多胡明美様（小金井市）

寄付金　（順不同）

○後藤美津子様（横浜市）○今田小夜子様（川口市）○柴田美智子様（神戸市）○津田芳子様（兵庫県揖保郡）○宮川績様（平塚市）○小野寺功一様（気仙沼市）○橋本進様（藤沢市）○宮本正男様（三浦市）○武智弘忠様（伊予市）○毛利昂志様（東京都練馬区）○田子のぶ子様（上田市）○藤井栄子様（上尾市）○猪股貞雄様（清瀬市）○山本チエ子様（吹田市）○河井賢二様（江田島市）○福岡昭七様（直方市）○藤原清孝様（玉野市）○齋藤延子様（上尾市）○北沢昌永様（横浜市）○森邦弘様（横浜市）○前田俊文様（志摩市）○高野豊様（横浜市）

遺族援護寄付金

○海事思想普及研究会様（神戸市）

終戦記念日献花式供花料

○米山隆昭様（東京都北区）

戦時徴用船の最期

大久保一郎遺作展寄付金　（順不同）

○重田育輝様（羽曳野市）○吉田博之様（鎌倉市）○白鷺裕彦様（東京都目黒区）

戦没船員功績等調査事業

戦没船員ご遺族や軍人ご遺族のほか、海事関係者や報道、研究者、一般の皆様から、電話やメール等で調査依頼が寄せられます。

昨年は終戦70年の節目であり第45回戦没・殉職船員追悼式には、天皇皇后両陛下のご臨席を賜りました。さらに12月、天皇陛下は82歳の誕生日に際し、戦没船員への思いを述べられました。（1面参照）

各報道機関が、このことを大々的に報道しました。結果、戦没船員遺族から、「戦没・殉職船員追悼式を、ニュースで知った。父は戦没船員の碑に奉安されているか」との問い合わせも、多く寄せられています。また、戦時徴用船の記録画展に訪れたご遺族からの問い合わせも寄せられています。

調査依頼の一部をご紹介します。

■男性（元船員）

小生は昭和20年4月、東京の水産講習所に入学。即日海軍予備生徒に編入され4ヶ月後終戦を迎えました。昭和の初めから焼津の漁船113隻が陸・海軍に徴用され、93隻が沈没・被害。戦没者405人と記録に残されています。

平成4年に「漁船の太平洋戦争」が上梓され思いを新たにしました。本書の最後に「戦没船員の碑」の記事があり、漸く友人二人と訪問しました。次の事項についてご教示いただきたく存じます。

①戦没船員で軍属の身分がついた方とそうでない方の区別は。また、靖国神社に祀られてない方がいると聞いています。

②碑に納められている名簿は商船の船員で、漁船員の名簿は納められていますか。（質問・意見は要旨）

【回答】

①当会の戦没船員名簿は、昭和40年代初め「戦没船員の碑」建立を前に、当時の厚生省の原簿を書き写し作成したものです。軍の徴用船や国の管理下にあった船に船員として乗船され戦死された6万余の方々です。

徴用された特設艦船（監視艇を含む）に、船員が軍人として召集（予備軍人を含む）されて乗組み戦死された方々は含まれていませんが、軍人以外の戦没船員は含みます。

遺族等援護法が昭和27年国会に上程されましたが、軍の徴用船に乗組んでいた船員が対象で、船舶運営会管理船の船員は対象外でしたが、労働組合、遺族会等の運動で、戦没した全ての船員を対象とする援護法が28年に制定されました。（軍徴用船以外の国の管理船で戦没された船員も軍属として扱われています。）

また、戦没された船員の方々は、昭和30年代までには全て靖国神社に合祀されたと聞いております。

②漁船の戦没船員の方々は奉安されています。奉安されている6万余人を商船、機帆船、漁船に分けることは原簿が区分されていないため困難ですが、その後の船会社等への照合等により商船（100トン以上の鋼船）の船員は約3万人であることが判明しており、機帆船、漁船の方々は約3万人と推測されています。

「戦没船員の碑」は、政府補助金、関係団体の寄付金、船員やOB船員、一般の方々からの募金により、昭和46年に建立し、その後、御製碑、御歌碑、行幸啓お成りの碑等は当会が建立しました。この碑を含め「戦没船員の碑」は全て神奈川県に採納し、神奈川県が観音崎公園とともに管理しております。

当会では、毎年5月に「戦没船員の碑」で戦没・殉職船員追悼式をご遺族はじめ政府・行政機関、海事関係者の参列により執り行っております。昨年は、終戦から70年の節目でもあり、6月10日に第45回追悼式を天皇皇后両陛下の御臨席を賜り執り行いました。

いただきましたご意見は、当会の事業運営に反映させ、戦没された船員の慰霊・顕彰と悲惨な戦争を後世に伝えるとともに海洋永遠の平和と安全を希求していく所存です。

能楽「海霊」奉納

第46回追悼式場で能楽「海霊」を、晴天のもとに奉納した。

能楽「海霊」は、戦没船員と生死を共にされた、宮越賢治船長が御霊の鎮魂と功績を後世に継承するために作詞され、自らシテ（主役）となって昭和46年5月6日の第1回追悼式で奉納されました。

宮越船長は、昭和61年に亡くなられましたが、以来今日まで観世一門により、途絶えることなく継承され、奉納が続けられています。

井関能雄さんから戦後70年の節目の第45回戦没・殉職船員追悼式を、ニュースで知った「戦没船員の碑」にお父上が奉安されているか問い合わせがありました。

そのお礼のお手紙とともに、所感を綴った「72年目の真実」が寄せられましたので紹介します。

72年目の真実

戦没船員遺族　井関能雄

2015年、平成27年6月10日、例年のことではあるが、「今日は、妻（房子）の誕生日だな」という漠たる意識に包まれて迎えた夕刻、ニュースを確認しようと、テレビのスイッチを押して飛び込んできた画像は、天皇陛下と美智子皇后が、戦後70年の節目にあたって、昭和46年より毎年、開催されている「戦没・殉職船員追悼式」で献花されている光景であつた。3・11東北大震災や阪神淡路大震災などの被災地および被災者へのその時々の見舞い或いは、第2次大戦の惨禍の痕を留める太平洋の戦地へのご訪問など、天皇陛下、美智子皇后ならではの細やかなお心遣いを目にしている者としては、その一端をまた見させていただいたと思ったのであるが、開催場所が横須賀であること、それに殉職船員の二つの事実が重なった時、稲妻の閃きにも似た衝撃が、一気に72年前に記憶を引き戻させることになった。

私、井関能雄がこの世に生を享けたのは、1943年、昭和18年5月15日、それから72年の月日を重ねた2015年、平成27年6月を迎えてその出自について、いまいち明らかでなかったものが、一筋の光明を得た思いであった。

父・鶴雄は、三井船舶の船長、国際航路を巡航する船舶員であった。時代は、一部軍人、政治家の〝八紘一宇〟の妄想に駆られた暴走の成すがまま、ただひたすら大東亜圏の栄華を掴まんと戦火の只中に猛進していた太平洋戦争のさなかのこと。「お国のため」の御言葉の前には、誰彼の別なく従わざるを得ない状況下にあった時代、軍事物資の輸送の任で徴用された一員であった。のちに戦死による扱いとして〝準軍属〟なる立場を与えられたものの、民間人であることは紛れもない事実としてある。いま、議論されている安全法制で避けて通ることが許されない「後方支援」そのものである。何の軍備もない文字通り丸裸に等しい民間の船舶が、米国の潜水艦の魚雷攻撃を受けたとしたら、結果は想像に難くない。一撃のもとに、3月とはいえ、まだまだ極寒のさなかにある北太平洋の海底に沈められたと、生前の母からはアリューシャンでと聞かされてきたが、本年、ウルップ沖であったことを確認させていただいた。

後追いのような展開で恐縮ですが、父が、乗船したのは、明石山丸。母の話しによると、一航海終えて帰ってきたばかりで、次の航海からは、船長としての航海とのことだった。

しかし、明石山丸が出航するにあたって、運転士に病気のために欠員が生じたことへの緊急補充の必要に迫られたという。対応に苦慮しているのを見兼ねて、他人が窮地にあるのを見て置くことの出来ない性格だったという父が代替要員として乗り込むことになったというが、この件に関しては、これまであまりにも好人物過ぎる面についての評価は別として、一応、生後10ケ月で顔すらも覚えていない父のことを誇らしくも思うことにしようと務めてきた。

これが偽らざる心情である。しかし、である。その一種、美談にも聞こえかねない交代乗船について、本年、知りえた事実を前に、愕然とすると同時に、改めて人間の悲しいまでの性と、それ以上に好まざる選択を否応なく強いる戦争の不条理に対しての、抑えようのない憤りを感じた。それは、情報として提供していただいた「商船が語る太平洋戦争・商船三井戦時船史」の「明石山丸」のくだりに記述されている猪塚船長の「おおっぴらには言えないがこの戦争は負ける。今度は恐らく生きて帰れないだろう。中には診断書を書いて貰って乗船しないものもいるが、自分はそんな卑怯なことは出来ない」との遺書にも等しい言葉を目にした時、恐らく父も同様の心境であったのであろうと、その無念に思いを馳せるしかない。代わってやることも叶わぬわが身を嘆くのみである。このように、72年目の真実を前に、改めて言うまでもないことであるが、人間に不条理を強いることしかない戦争は絶対に起こしてはならない、の一事しかない。

この7月31日の猛暑下、妻を伴って横須賀市観音崎公園に建立された「戦没船員の碑」をおとずれた。6万人からの民間人たる船舶従事者を弔う「安らかにねむれ　わが友よ　波静かなれ　とこしえに」の鎮魂歌を前に、追悼の思いとは別に、父親との絆を断たれた空白感が生んだ、この40年余、わが子への父親としてのあるべき姿から程遠かった己が振舞いへの悔悟の念が強く去来したことを、ここにはじめて記しておきたい。最後に、私が72年間、父との絆を経験することがなかった己が出自への確認が出来たことを含め、新たな人生への機会を作っていただいた天皇、皇后両陛下、そして、これは奇遇ですが、毎年、私の誕生日である5月15日に「戦没・殉職船員追悼式」を行っていただいている日本殉職船員顕彰会の皆様方に、改めて深い感謝の意を表するものです。

海に殉じた人々へのレクイエム(鎮魂曲)
～ 君は帰る母なる海へ ～

戦没・殉職船員追悼式で、海上自衛隊横須賀音楽隊が演奏する、海に殉じた人々への鎮魂曲「君は帰る母なる海へ」の由来について紹介します。

「安らかに　ねむれ　わが友よ　波静かなれ　とこしえに」と刻まれた碑文石に捧げられた白菊の花

戦没・殉職船員追悼式で、参列された方々が、御霊に献花を捧げる時に、流れる鎮魂曲「君は帰る母なる海へ」の由来についてご紹介します。

わが国は海洋国でありながら、これまで海に殉じた人々に捧げる鎮魂曲は無いに等しいという状態でした。

このことから平成11年、「日本海事広報協会」と「日本殉職船員顕彰会」は、海の犠牲になった人々の鎮魂のための曲を共同で制作することを決定し、その制作資金を広く募集することとしました。

平成11年5月、制作資金募集にあたり日本海事広報協会は、海に殉じた人々への鎮魂歌（葬送曲）の制作を決定したとして、次のように報道発表しました。

『日本海事広報協会と日本殉職船員顕彰会が共同で、海に関わり、海に殉じた人々への鎮魂歌（葬送曲）の制作を決定しましたのでお知らせします。わが国は四面を海に囲まれ、古来、海からさまざまな恩恵を享けることにより、今日の豊かな国を築き上げてきました。私たちは、この大いなる海の恩恵に感謝すると同時に、その犠牲となった多くの人々を忘れてはなりません。ところが、残念なことに、海洋国でありながら、現在、我が国には、海で亡くなった人々のための葬送曲がなく、追悼式などで演奏される曲は、どれも外国の曲ばかりという状態です。

そこで、このたび海事関係団体の皆様方のご推奨のもと、作曲家の都倉俊一氏と作詞家の星野哲郎氏の協力を得て、海の犠牲になった人々の鎮魂のための歌を作ることとなりました。なお、この鎮魂歌の制作資金につきましては、広く一般の人々の寄付を募っております。』

として、鎮魂歌の制作に着手した。

平成12年3月に開催された、マリンフォーラム2000「ロマンをもとめて ― 海と歌 ―」(主催・日本海事広報協会、日本海事新聞社)で、海事関係団体や多くの人々のご支援、ご協力によって作られた、海に殉じた人々へのレクイエム（鎮魂歌）『君は帰る母なる海へ』が、ボニージャックスの歌で、初めて披露された。(歌詞は著作権により省略)

平成11年5月21日号の「海上の友」(日本海事広報協会発行)に、作詞家・星野哲郎さんが、「勇気と優しさを兼ね備え、いつも先頭に立って任務に専念していた友が、海に殉じた。前触れもなく訪れる、このような別れを、あとに残る者はどのように納得すればよいか。それには『友は、母なる海の懐に帰っていったのだ』と歌うしかないだろう、というのが私の考えです。平和な時も、戦の時も海は日本の生命線です。その最先端に在って、海の安全を守る、真の勇者たちの安全を切に願ってこの詩をささげます」。作曲家・都倉俊一さんは、「日本の葬送曲にはたとえば『海ゆかば』という心にしみこむ音楽がある。しかし、どうしても戦争のイメージが強い。そこで若い人にも受け入れやすく、21世紀に歌い継がれていくようなものと考えた。あまり暗くなく、心になごむ曲にした」と鎮魂曲への思いを寄せた記事が掲載されている。

第30回戦没・殉職船員追悼式（平成12年5月15日）は、天皇、皇后両陛下の行幸啓のもとに執り行われた。

海上自衛隊横須賀音楽隊により、吹奏楽用に編曲された「君は帰る母なる海へ―海に殉じた人々へのレクイエム（鎮魂曲）」が追悼式ではじめて演奏され鎮魂曲が流れる中、天皇、皇后両陛下のご供花、参列者の献花が捧げられた。

以来、戦没・殉職船員追悼式では、日本海事広報協会と日本殉職船員顕彰会が共同で制作した、鎮魂曲「**君は帰る母なる海へ**」の演奏がおごそかに流れる中で、「海洋永遠の平和と安全」を願い、戦没船員・殉職船員の御霊に追悼の献花を行っている。

追悼式で「君は帰る母なる海へ」を奏でる海上自衛隊横須賀音楽隊